

拝啓 今年も早や11月末となりました。いつもエンカウンターをお読み頂きありがとうございます。近所の公園では、紅葉が美しい時期となっています。

今回は、小西芳之助先生の『コリント人への第二の手紙講解説教』からの引用の4回目ですが、今回の「エンカウンター」の7ページ、「10年後の感想、——天国、永遠の生命、これが聖書の唯一の問題——」という項目には、次のようにあります。

「10年後の感想——天国、永遠の生命、これが聖書の唯一の問題
要するに、天国、永遠の生命、これが聖書の唯一の問題です。「The dominant theme」は、この永遠不滅の生命を自分のものにするということであります。そして、主の名を呼んで、永遠の生命によって歩むことであります。今日の司会者の祈りを聞いていたら、私は涙が出て来ました。口では偉そうなことを言っておりますが、心は悩みと苦しみの、この世にへばりついた生活をしています。どうしても、「わが主イエスよ」と主の名を呼ぶことが必要となって来ます。」

dominant theme という言葉は、小西先生から、繰り返し繰り返し聞いた言葉です。

この一月に読んだ『一日一生』等の本から、感銘を受けた言葉を紹介します。

小西芳之助先生『主の御名を呼ぶ』11月17日

「恵心流キリスト教

恵心流キリスト教とは、ロマ書10章9節である。

曰く、「口で我が主イエス」と称うれば、救われるのである。ただし心では、救われるのはイエスの名を称える力によるのではなく、神がイエスを復活せしめて成就し給いし贖いの力によると理解するのである」と。

新渡戸稲造先生『一日一言』10月27日

「山の如く積もる勤務は多くとも、1年間の用を一日に遂ぐる力もなければ、またその必要もなし。人はただ、その日その日の義務を完了することにて足る。一日の業は百年の基礎をもつくるべし、一粒の米に万石の約束あるがごとし。」

松下幸之助先生『続・道をひらく』「春雷」

「ながい人生。いろんな不安がある。いろんなおどろきがある。閃光一せん、眼のくらむ思いにおろおろするときもある。不安とおどろきに足がすくむ時もある。

しかし、安心するがいい。おろおろしなくてもいい。あなたにとらわれの心がないかぎり、あなたが素直な心でいる限り、そして自然の理を見失わないかぎり、そのおどろきも不安も、あなたが耐えに耐えぬいた末の新たな春を告げる前ぶれなのである。いそいそとした思いであってよいのである。日本の国にも、今春雷が遠く近くとどろいているのであろうか。」

内村鑑三先生『一日一生』11月21日

「聖霊を受けんと欲すれば神の誠命（いましめ）を守らなければならない。聖霊は単に祈っただけではえられない。聖書を研究しただけではえられない。決心と勇気とをもって

神の命令を実行して、ゆたかに与えられるものである。聖霊は神がその子の善行に報いんがために下し給う最大の恩賞である。われらは信仰の行為によってのみ聖霊の獲得を確実にすることができる。研究によって霊欲を起し、祈祷によってこれ呼び求め、実行によってこれを獲得するのである。実行は誠に最も有力なる祈禱である。…」

バークレー先生「ウィリアム・バークレイの一日一章」10月31日

「ピレモン

いろいろな意味で、ピレモンへの手紙は新約聖書中最もふしぎな文章である。オネシモという逃亡奴隷に関する個人的な手紙が、新約聖書のなかでどんな役割を果たしているのだろうか。…なぜこんな手紙が新約聖書の中に入ってきたのだろうか。確実に分らないが、推測は出来る。パウロの書簡が収集・編集され、一卷の書として公刊されたのは、紀元90年エペソにおいてであったと学者たちは考えている。それから何年かのち、アンテオケの監督イグナティウスはアジアの諸教会に手紙を書いていた。その時イグナティウスは、ローマに連れていかれるところで、やがてはローマの競技場で野獣の群れの中に投じられる運命であった。

それらの手紙の中に、エペソの監督——彼の美しい性格、その名前にふさわしい彼の生涯の有益性——に対して、めったに見られないような最高の賛辞を呈しているのである。

ではそのエペソの監督の名前は何か。オネシモである。

逃亡奴隷オネシモとエペソの監督オネシモとは同一人物である、と信ずる学者たちがいる。パウロの手紙がエペソの集められた時、オネシモは、自分がかつてなんであったか、またイエス・キリストが自分のためにどういうことをして下さったかをみんなに知ってもらうために、このピレモン宛ての小さな手紙をパウロの書簡集の中に加えるように主張したので—学者たちはそう考えているのである。」

カウマン先生『日の出に向かって』10月9日

「夕方、私は静かな声がこういうのを聞いた
昨日のことを明日にまで背負っていくな
先週の悲しい重荷を今週の重荷にするな
重荷が臨んだらすべて取り去れ
一歩、そしてもう一歩とあなたの道を獲得し、その日その日を生きよ……
前向きに上向きに、微笑みつつ祈れ
一日一日を生きよ
今日は、あなたがきのう悩んでいた明日なのである。」

再び新型コロナの拡大が始まりつつあるように見えますが、マスク、手洗い、うがいなどはこれまで同様実行されて、またワクチン注射は打てるときに打つという方針で行かれます。十分ご注意下さるようお祈り申し上げます。

11月22日

山口周三

エンカウンター読者の各位